

都市再生整備計画(第6回変更)

名張地区

三重県 名張市

平成20年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	三重県	市町村名	なばりし 名張市	地区名	なばりさく 名張地区	面積	190 ha	
計画期間	平成	16 年度 ~	平成	20 年度	交付期間	平成	16 年度 ~ 平成	20 年度

目標

名張の原風景と人情が息づく魅力ある中心市街地の創造

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

名張市は、古く万葉の昔から大和と伊勢を結ぶ東西往来の要衝であり、伊勢参宮の人々が往来した初瀬街道沿いの宿場町として発展し、江戸時代には伊予国今治から往来した藤堂高吉公が本地区の丸之内に居館を築き城下町としての体制を整えるなど、古くから本市の中心市街地として栄えてきた。

また、本地区は近畿日本鉄道大阪線名張駅を中心とした交通の拠点であり、名張藤堂家邸や江戸川乱歩生誕の地のほか、社寺などの歴史・文化遺産が多く残されており、地域を取り囲むように流れる名張川をはじめとして、地区内を網の目状に流れる梁瀬水路などは、うるおいと安らぎを与える重要な地域資源となっている。

しかしながら、昭和40年代以降、郊外部での大規模住宅地開発が相次いだことによる、スロー化の進行など都市構造の変化や、都市基盤整備の遅れなどから、既成市街地である本地区では人口の高齢・空洞化等に伴い、産業活動の低迷や良質な地域コミュニティの維持が困難な状況にあり、中心市街地としての求心性が失われつつある。

平成11年には名張市中心市街地活性化基本計画を策定し、名張地区の賑わい再生に取り組んでいるが、高齢化等に伴うまちづくりの担い手の不足等の諸問題が発生しており、今後は多様な主体の協働により継続的なまちづくりを進める必要がある。

【参考】名張地区人口の推移等

(S45年)11,373人 (H12年)7,822人 減少率 31.22%、名張地区の高齢化率:(H12年)24.3%、事業所数(S47)1,086 (H11)981 減少率 9.67%

なお、当地区には地域住民から構成された「名張地区まちづくり推進協議会」が平成13年に設立されており、道路交通専門部会、都市景観専門部会、健康づくり専門部会の3つの専門部会により、特色あるまちづくりが進められている。

【参考】各部会の主な取組

「道路交通専門部会」:核店舗周辺道路のアクセス問題について懇談会の開催、地域防災自主防災の意識向上や、高齢者等にやさしいまちづくりの推進など

「都市景観専門部会」:名張川エコロードプロジェクト整備事業、梁瀬水路の環境浄化啓蒙活動と錦鯉放流事業への支援など

「健康づくり専門部会」:空き店舗などを活用した、宅老施設サロン、ギャラリー、学生支援センターの開設など

また、平成15年11月には、名張地区まちづくり推進協議会によって「名張地区活性化計画」が策定され、次世代に継承すべき歴史・文化的、自然的地域資源の整理や、誇りと愛着をもって住み続けることができるよう、伝統芸能や祭礼行事の継承、健康・福祉の増進などについて、地域の考え方が取りまとめられており、まちづくり推進協議会を中心として、商工会議所や地元組織によるまちづくりに関する気運が高まっている。

本市としては、地域のまちづくりに関する熟度が高まっている状況において、こうした地域からの提案や地域活動をより実りあるものとしていきたい。

課題

・三重県の西の玄関口として、また伊賀地域の中核都市として相応しい都市機能の充実を図る。

(既成市街地と新しい市街地での相互補完と機能分担、TDM施策の推進、街並みに調和する快適な歩行者動線など)

・名張らしさ(歴史・文化的要素)を活かした中心市街地として、商業の振興、魅力ある居住空間を創出し賑わいを取り戻す。

(歴史・文化資源を活かしたまちづくり、市民コミュニティ拠点としての機能更新など)

・公園等の都市機能の整備や、土地利用の明確化による商業・業務・住居の用途混在を解消など、安全快適に住みつつけることのできる生活環境を整備する。

(安全快適でうるおいのある生活環境の整備、公園等の都市アメニティ施設の整備など)

将来ビジョン(中長期)

三重県都市マスタープラン 名張都市核においては、中心市街地での都市機能の集積を図り、魅力と賑わいのある都市空間を創造していくとともに、初瀬街道などの歴史・文化資源を活かしながら整備を進めます。

名張市総合計画「まちの顔づくりプラン」(名張地区既成市街地は、文化の薫りを活かした集客交流と活力があり暮らしやすい生活空間の創造を目指し、地域住民、商工業者、市民団体等と協働してまちづくりに取り組みます。)

名張市都市マスタープラン 名張地区の既成市街地については、今後、鴻之台地区や中央西土地区画整理事業施行区域と合わせて、伊賀地域における都市拠点として都市機能の整備、集積を図ります。また、歴史的な街並みや文化資源など名張の原風景や地域資源を活かしながら、都市基盤の整備を積極的に進め、居住空間の向上や商店街の活性化を図ります。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
				基準年度	目標年度	
街並みの美しさに関する満足度	%	市民意識調査(平成15年6月実施)	地域住民にとって生活空間の魅力を測るひとつの指標	20%	15	60% 20
歩行者等の道路通行の安全性 [〃]	%	〃	地域での歩行空間の回遊性、快適性を測る指標	18%	15	60% 20
伝統・文化遺産等の保護、活用 [〃]	%	〃	地域への愛着や、地域資源の活用に関する指標	25%	15	60% 20
広場・公園の整備 [〃]	%	〃	地域住民にとって生活空間の魅力を測るひとつの指標	30%	15	60% 20
商業・サービス業の振興、整備 [〃]	%	〃	地域の賑わいを測るひとつの指標	16%	15	60% 20

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・文化薫る魅力と愛着のあるまち 歴史・文化資源、名張の原風景ともいえる風情ある街の佇まいや初瀬街道の街並みを磨き、市内外の人々の交流の場となる魅力ある都市空間を創造する。</p>	<p>初瀬ものがたり交流館整備(基幹事業:既存建造物活用(高次都市施設)) 乱歩記念広場整備(提案事業:地域創造支援事業)</p>
<p>・歩いて楽しいまち 内外の人々が訪れ、街歩きが楽しめるように、道空間を磨くとともに、水路等を活用して水と緑と歴史・文化のネットワークづくりを進める。 ・賑わいのある元気なまち 市内外の人々が集い、ふれあう賑わいのある街づくりに取り組む。</p>	<p>公共サイン整備(基幹事業:地域生活基盤施設) 駅前公衆用トイレ整備(基幹事業:高質空間形成施設) 歩行者ネットワーク等社会実験(提案事業:まちづくり活動推進事業) 歴史・文化修景事業(提案事業:地域創造支援事業)</p>
<p>・人が主役のまち ともに力を合わせて、希望に満ちた街の将来を拓くため、住民をはじめ多様な主体が協働してまちづくりに取り組む。 ・健やかな暮らしが広がる住みよいまち 多様な世代の人々が安心して暮らし続けることができるよう、地域福祉の充実を図るとともに、快適な生活環境を整える。</p>	<p>水と緑のネットワーク整備(基幹事業:高質空間形成施設) 事業活用調査(事業効果分析) 名張まちづくり塾の開催 (提案事業:まちづくり活動推進事業(まちなか再生執行管理))</p>

その他

【総合計画での位置付けについて】
総合計画において、特に重点的に取り組むべき施策をリーディングプランとしてまとめており、前頁、将来ビジョンに記述のある「まちの顔づくりプラン」もその一つとして位置付けられている。名張市において、当地区は原風景ともいえる象徴的な地区であり、今後は多様な主体によってまちづくりに取り組む必要がある。

【景観形成に係る補足】
初瀬街道や名張藤堂家邸などの歴史的景観や、名張川、梁瀬水路などの自然景観など、名張地区のまちづくりに関して景観形成・修景は重要な要素であり、より計画的に景観施策を進めるために、「(仮称)名張市景観形成基本条例」を策定(2006年度予定)する旨を総合計画にて記述している。

【ひとづくり】
名張地区のまちづくりを継続的なものにするため、名張地区まちづくり推進協議会を中心に、商工会議所、地区外の市民など、まちづくり活動の輪を広げ多様な主体との協働体制を整えると共に、連続講座である「名張まちづくり塾」等を通して、まちづくりに関する意識啓発と、まちづくりの担い手を育成する。

【交付期間における各事業の執行管理など】
より効果的な事業実施に向け、目標を定量化する指標に掲げた満足度などについては、定期的なタウンミーティングや、事業の進捗状況にあわせて意識調査などを行ない、必要があれば取組手法の見直しや、必要な追加項目の目標指標の設定等を住民組織との協議の中で行なう。

【名張地区まちづくり推進協議会の取組について】
「名張川エコロードプロジェクト」
名張川右岸水際にある延長約1.2キロにおよぶ竹やぶと堤防道路を清掃・整備し、竹やぶと堤防道路の路肩部分に手作りの生垣を設置して、市民が集い憩うことのできる遊歩道としてリフレッシュさせる事業であり、メンバーに加え一般ボランティアも参加して、実施されている。
(定例作業のほか、河川敷において環境美化啓発・交流イベント等も開催)



整備された堤防道路

